

平成27年3月期 中間決算概要

連結決算概要(経営成績)について

(単位:億円)

区分		H26/9 当中間期 実績	H25/9 前中間期 実績	増減	H27/3 通期見込 ※2	H26/3 前期通期 実績	増減
営業収益	高速道路事業	3,902	3,811	90	10,228	8,287	1,941
	料金収入	3,609	3,058	551	7,201	6,053	1,147
	道路資産完成高	279	740	▲ 461	3,001	2,204	796
	その他	13	12	1	25	28	▲ 3
	関連事業	232	249	▲ 16	556	578	▲ 21
	SA・PA事業 ※3	169	181	▲ 12	334	347	▲ 12
	その他の事業 ※4	63	67	▲ 4	222	230	▲ 8
		4,134	4,061	73	10,785	8,866	1,919
営業費用	高速道路事業	3,876	3,738	138	10,240	8,298	1,941
	道路資産賃借料	2,623	2,122	500	5,203	4,263	940
	管理費用	974	874	99	2,035	1,800	235
	道路資産完成原価	279	740	▲ 461	3,001	2,235	766
	関連事業	209	219	▲ 10	518	522	▲ 3
	SA・PA事業 ※3	140	145	▲ 5	285	285	0
	その他の事業 ※4	68	73	▲ 4	233	237	▲ 3
		4,086	3,957	128	10,759	8,821	1,937
営業利益	高速道路事業	25	73	▲ 47	▲ 11	▲ 11	0
	関連事業	23	29	▲ 6	38	56	▲ 17
		48	103	▲ 54	26	44	▲ 18
経常利益		57	111	▲ 54	41	61	▲ 19
中間(当期)純利益		24	50	▲ 25	12	34	▲ 22

※1 当社グループは、当社及び連結子会社26社、持分法適用の関連会社等7社で構成されており、高速道路事業、SA・PA事業、その他の事業を行っています。

※2 「通期見込」欄の業績予想は、将来見通し、計画の基となる前提、予測を含んで記載しており、実際の業績は今後、様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

※3 「SA・PA事業」とは、高速道路のサービスエリア(SA)・パーキングエリア(PA)における飲食・物販及びその不動産を賃貸する等の事業をいいます。

※4 「その他の事業」とは、受託事業、コンサルティング事業、収益還元事業等の事業をいいます。

高速道路事業トピックス

- 当中間決算期の当社管内の高速道路の通行台数は、前期比 3.0%減少し 274.1 万台 / 日となりました。
 - 営業収益のうち、高速道路料金収入は、前期比 551 億円増の 3,609 億円となりました。
 - 一方、営業費用のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料は、料金収入の増加に伴い、前期比 500 億円増の 2,623 億円となりました。
 - また、管理費用は、前期比 99 億円増の 974 億円となりました。
 - 以上のことなどから、当中間期における高速道路事業の営業利益は、前期比 47 億円減の 25 億円となりました。
 - 通期における高速道路事業の業績につきましては、料金収入は上半期と同様に増加するものと予想していますが、それに伴う道路資産賃借料の増加や、道路保全点検や舗装補修費などの管理費用の増加などにより、営業利益は前期並の 11 億円の赤字を見込んでいます。
 - 当中間期における道路資産完成高¹は、近畿自動車道（守口ジャンクション）^{もりぐち}の完成などがありましたが、前期と比べ新規開通箇所が少なかったことから、前期比 461 億円減の 279 億円となりました。
 - 通期における道路資産完成高は、下半期に徳島自動車道（徳島インターチェンジ～鳴門ジャンクション）^{とくしま}などの開通を予定しており、前期比 796 億円増の 3,001 億円を見込んでいます。
- 1 道路建設にかかった経費と同額の債務を機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益や損失は発生しません。

関連事業トピックス

- 当中間期における関連事業につきましては、S A・P A事業において交通量の減少等による店舗売上高の減少があったことや、受託事業の減少があったことなどにより、営業収益は、前期比16億円減の232億円となり、営業利益は、前期比6億円減の23億円となりました。
- 通期における関連事業の業績は、S A・P A事業における店舗売上高の減少に伴う収益減などにより、営業利益は、前期比17億円減の38億円を見込んでいます。

決算値の季節的変動

- 高速道路の料金収入は、上半期が下半期に比べ気候が良いことや長期休暇が多いことなどから、上半期が多くなる傾向があります。
一方、管理費用は、冬期における交通を確保するための雪氷対策などにより、上半期よりも下半期が多くなる傾向があります。
このため、上半期と下半期の業績には次のような季節的変動が生じ、結果として上半期と下半期の営業利益を比較した場合、上半期の値が大きくなる傾向にあります。

(単位:億円)

区 分		上半期(実績) (A)	下半期(見込)	合計(見込) (B)	上半期比率 (A/B)
営業収益	高速道路事業	3,902	6,326	10,228	38.2%
	うち料金収入	3,609	3,592	7,201	50.1%
	関連事業	232	324	556	41.8%
		4,134	6,650	10,785	38.3%
営業費用	高速道路事業	3,876	6,363	10,240	37.9%
	うち管理費用	974	1,060	2,035	47.9%
	関連事業	209	309	518	40.4%
		4,086	6,672	10,759	38.0%
営業利益	高速道路事業	25	▲ 37	▲ 11	—
	関連事業	23	14	38	61.0%
		48	▲ 22	26	—

下半期及び合計の額は、将来見通し、計画の基となる前提、予測を含んで記載しており、実際の業績は今後、様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

【参考】個別決算概要（経営成績）について

(単位:億円)

区分		H26/9 当中間期 実績	H25/9 前中間期 実績	H27/3 通期見込 ※1	H26/3 前期通期 実績
営業収益	高速道路事業	3,893	3,802	10,210	8,268
	料金収入	3,609	3,058	7,202	6,055
	道路資産完成高	279	740	3,001	2,204
	その他	4	3	6	8
	関連事業	81	88	240	247
	SA・PA事業	52	52	105	105
	その他の事業	28	35	134	142
		3,974	3,891	10,450	8,515
営業費用	高速道路事業	3,863	3,729	10,226	8,284
	道路資産賃借料	2,623	2,122	5,203	4,263
	管理費用	960	865	2,021	1,785
	道路資産完成原価	279	740	3,001	2,235
	関連事業	73	78	226	225
	SA・PA事業	38	35	78	69
	その他の事業	34	43	147	155
		3,936	3,808	10,453	8,510
営業利益	高速道路事業	30	73	▲ 16	▲ 16
	関連事業	7	9	13	21
		37	83	▲ 3	5
経常利益	56	93	18	19	
中間(当期)純利益	27	26	2	▲ 5	

※1 「通期見込」欄の業績予想は、将来見通し、計画の基となる前提、予測を含んで記載しており、実際の業績は今後、様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。